

青空の下、おいしそうに草を食べるシバヤギの「チップ」と「ポテト」(左奥)＝名古屋市港区の名古屋競馬場で



「ウメエー」。青空の下、ムシヤムシヤと草をはむ。ふと見せる表情が愛くるしい。人懐っこい兄チップとマイペースな弟ポテト。名古屋競馬場(名古屋市港区)の草刈り作業に一役買っているシバヤギの兄弟だ。

来場者に楽しんでもらい、かつ環境に配慮した除草ができると二〇一五年七月、岐阜大応用生物科学部で研究用に飼育されていたチップを、翌年八月にポテトを譲り受けた。

当初は内馬場の雑草を中心に食べさせる予定だったが、あまりにも面積が広いため断念。競馬開催日は出入り口付近の円形ステージで、非開催日はスタンド前の遊具広場で生い茂る雑草

名古屋競馬場シバヤギ



27

草を刈る`ポテトチップ`

を黙々と食べる。「ほかつといたら、ずっと草を食へ続けているんじゃないですかね」。飼育担当の水野貴支さん(回)は仕事熱心な食いつぶりに太鼓判を押す。

ファンとの触れ合いも大事な業務。新型コロナウイルス感染拡大の影響で無観客開催が続いた期間中でも、会員制交流サイト(SNS)やメールで「ヤギは元気ですか」と問い合わせが相次ぐほどの人気者だ。県の緊急事態宣言解除に伴い、八月二十六日から入場可能となり、「チップとポテトも退屈にしてみました。ぜひいっぱい遊んであげてください」と水野さん。今日も兄弟は、競馬場に来た人たちを笑顔にする。

写真と文・浅井慶

名古屋競馬場 1949年開業、「土古(どんこ)」の愛称で親しまれてきた地方競馬場。2022年には弥富トレーニングセンター(弥富市)へ移転し、跡地は26年アジア競技大会の選手村として整備される予定。

シバヤギ 哺乳綱ウシ目ウシ科。体高は成体で約50~60㍍。主に草を食べ、オス、メス共に角を持つ。長崎県西海岸、五島列島などが原産。性格が比較的温和で飼育しやすいとされる。